

### Ⅲ まとめと今後の課題

#### 1. 研究の成果

##### (1) 教材文分析について

- 観点をもって初発の感想を書き、それらの感想を交流することで、あらすじをつかんだり、学習課題を設定したりすることができた。また、登場人物の気持ちや行動、大事な言葉に焦点を当てた学習課題作りや発問を行うことで、児童の知的好奇心を喚起する学習活動が展開できた。
- 観点をもった感想の交流や物語クイズ（アニメシオンゲーム）など、児童が主体的に何度も教材文を読み返す活動を工夫することにより、教材内容の理解につながった。
- 学習のねらいに応じて、登場人物の言動を比較することで、場面の様子や登場人物の行動の理由を想像しながら読みを深めることにつながった。

##### (2) 交流について

- 全体交流の前にペア交流を行ったことで、伝達の素地づくりにつながった。書いたものを声に出して読むことで、誤字・脱字に気付いたり、自分の考えを確かめたりすることができ、全体交流に参加するための自信や発表意欲も高めることができた。
- 板書では、児童にとらえさせたい大事な言葉を厳選し、登場人物や場面を比較できるようにすることで、児童の思考力や語彙力を高めながら、交流することに役立った。
- 自分の考えを書いたり、交流したりする際には、「①言い換え ②比べる ③つなげる ④もし、自分だったら」を繰り返し伝え、意識できるように助言した。主体的に表現活動ができるようになることで、語彙力を高めながら教材内容を理解することができた。

##### (3) 評価について

- 振り返りでは、わかったことや楽しかったこと、友達の考えでよかったところ・言葉を書くことで学習の達成感や学習意欲を評価することができた。その結果、語彙を増やしたり、言葉にこだわって友達の考えを聞いたりすることにつながった。
- Ⅲ次では、Ⅱ次での学習を活用できるよう言語活動を設定することで、成果物からどのような知識や技能が身に付いたのかを評価することができた。
- 成果物を交流することで、読書の楽しさや面白さを感じさせるとともに、付けたい力について具体的にどのようによいかを全体に認め広げることにつながった。

#### 2. 今後の課題

- 児童の思考力や語彙力を高めるために「比較」のある学習活動を計画していく。
- ペア交流する際には、目的を児童に伝えてから行うようにすることで、全体交流の深まりや広がりにつながる。そこで、今後は発達段階を意識して交流の内容を明確にし、いつどのタイミングで行うかや、時間配分についても考えることが大切である。
- 低学年の発達段階上、登場人物の目線から離れて書く活動（異化）は非常に難しい。異化の言語活動を位置付ける場合は、同化から異化の活動に転換する学習内容をⅡ次に入れる必要がある。
- 発達段階に応じた学習課題に対するまとめの在り方を考えていく。
- 交流によって付けたい力がどのように身についたか判断するためにも、低学年から振り返りの表記の仕方（モデル）を提示し、感想の書き方を学ばせていく必要がある。